

# 水道だより

令和8年1月号  
経営企画課

TEL 237-5801  
FAX 237-5819

## 「水道のつながり、未来への備え」 —津市と県営水道の関係を知っていますか？—

毎日の暮らしに欠かせない水道水。実はその水、津市だけでつくっているわけではないんです。

津市の水道水の約6割は、三重県企業庁が供給する「県営水道」(以下「県水(けんすい)」)といえます。)を購入(受水)して、みなさんにお届けしています。県水の水源は市内を流れる雲出川と三重と愛知の県境になっている長良川から運ばれてきています。車での移動距離にすると、約60kmも離れた川の水が使われていることを初めて知った方も多いのではないでしょうか。



一方で今、水道事業は大きな転換期を迎えています。令和6年の能登半島地震、そして令和7年11月に沖縄県で発生した大規模断水。沖縄県(企業局)では、県北部にあるダムから浄水場に水を送るための導水管が老朽化により破裂したため、県南部の多くの市町村に水を送ることができなくなり、断水となりました。

石川県や沖縄県の事例は各地域へ水を運ぶ太い管(基幹管路)が破損したことが大規模断水の原因の1つに挙げられますが、これらの事例は災害や老朽化への備えがいかに大切かを私たちに示してくれています。

津市の水道は、自己水源と県水の2つの供給ルートを組み合わせています。さらに、雲出川や長良川など、複数の水源から水を取水することで、安定供給につなげています。

このあと、県水を受水する理由や受水費用について、わかりやすく解説します。津市の水道事業の経営や未来のことを一緒に考えていきましょう。

## 県水の水道水はどのくらい使われているの？

ここで、1つみなさんにクイズです！

【問題】三重県内には29の市町がありますが、そのうち県水を受水している市町はいくつあるでしょうか？



【答え】18市町(右の地図では受水市町を紺色で示しています。)県内全体の給水量で見ても、県水は約32%(令和5年度実績)を占めていて、多くの市町にとって重要な水源となっています。

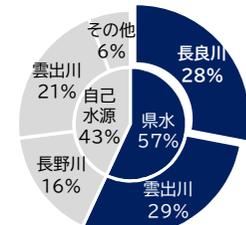
つづいて、2つめのクイズです！

【問題】18市町のうち、県水の受水量が最も多いのはどこでしょうか？

【答え】津市  
津市の令和6年度の受水量約2,230万m<sup>3</sup>は東京ドーム18杯分に相当します。

## 津市はなぜ県水を受水しているの？

津市の水源構成(令和6年度末時点)



令和6年度末における津市の水源構成は、県水57%、自己水源43%となっています。これは、自己水源だけでは、みなさんが津市で1年間暮らししていくために必要な水道水の半分もお届けできないということを意味しています。

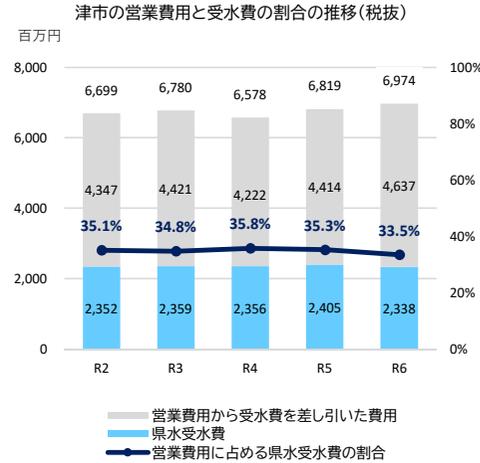
県水は、みなさんに安定して水道水をお届けするために、欠かすことのできない水源なのです。その他にも県水を受水している理由があります。

老朽化した浄水場などを廃止し、県水へ切り替えることで施設の更新費用を削減することができます。また、水源を分散することで、漏水時でも水を安定してお届けできるようにするとともに、災害などで一部が断水した場合でも、複数のルートから補い、大規模な断水をできるだけ防ぐことができます。

津市には、長良川からの水も必要なこととおわかりいただけましたでしょうか。

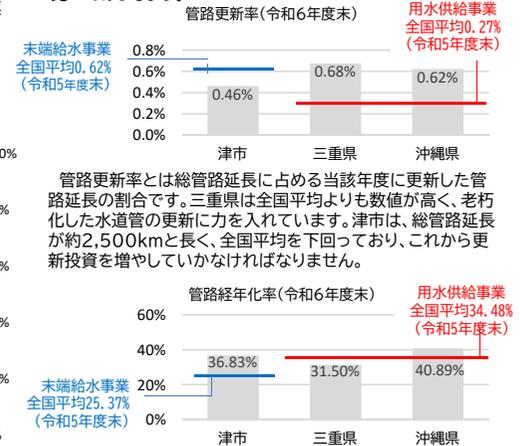
## 県水受水にどのくらいのお金がかかっているの？

県水を受水するために、どのくらいのお金がかかっているのか見てみましょう。雨量などの気象条件で変動しますが、受水費は約23~24億円かかっており、営業費用の約35%を占める一番大きな費用となっています。



## 水道施設はどのくらい老朽化が進んでいるの？

水道事業の未来を考えるために、令和7年11月に大規模断水が発生した沖縄県と三重県(県水)、津市の老朽化の状況を比べてみましょう。



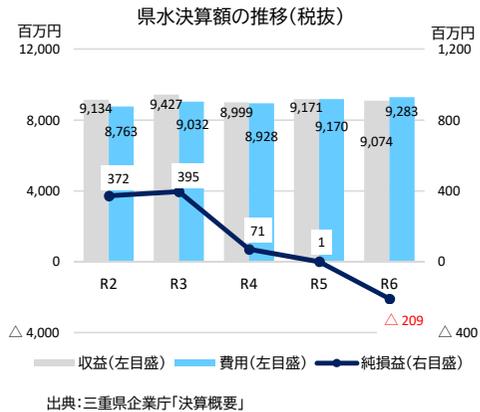
管路更新率は総管路延長に占める当該年度に更新した管路延長の割合です。三重県は全国平均よりも数値が高く、老朽化した水道管の更新に力を入れています。津市は、総管路延長が約2,500kmと長く、全国平均を下回っており、これから更新投資を増やしていかなければなりません。

管路経年化率は、管路総延長に占める法定耐用年数を超えた管路延長の割合です。三重県は管路の更新に投資し、全国平均と比べて数値が低い状況にあります。一方、沖縄県と津市は全国平均と比べて数値が高く、老朽化による断水等のリスクが高いことがグラフからも読み取れます。

※ 両比率は総務省「地方公営企業決算状況調査(令和6年度)」から算出

## 県水の経営状況

県水は、令和6年度決算において、給水量の減少や修繕費の増加などにより、約2億900万円の純損失(赤字)となりました。



出典:三重県企業庁「決算概要」

三重県企業庁では今、このような収支状況の改善と今後の老朽化対策を進めるため、令和9年度以降の県水の水道料金の見直しを検討しています。

## 津市と県水のつながりと未来

三重県では、水道管の更新に引き続き積極的に取り組む予定であり、そのための費用負担が増えると見込んでいます。

一方、津市においては、今後、三重県以上に老朽管の更新を進めていく必要がある中、そのための財源を確保していかなければなりません。ここで、さらに県水の受水費が増加すると、津市の水道事業の経営は一層厳しいものになってしまいます。

みなさん、いかがでしたか。津市と県水は密接な関係にあることをご理解いただけたでしょうか。

津市はみなさんからの水道料金で県水を受水しています。

津市ではこれまでも、県水料金の見直しに対して、市民のみなさんの負担を第一に考え、慎重な対応を三重県に求めてきました。

もちろん、津市自身も経営努力を続けていく必要がありますが、県水料金が水道事業に与える影響は大きく、安定した水道水の供給を守るためにも、今後も三重県企業庁に対して、できる限り低廉な料金の維持を求めています。

今の水道を維持することはもちろん、50年先、100年先の世代まで安定して水道水を届けられるよう事業を進めていきます。